

地方独立行政法人大阪市博物館機構 年度計画

令和3年度

令和3年4月1日

地方独立行政法人大阪市博物館機構

(前 文)

平成 28 年に策定された「大阪市ミュージアムビジョン」は、めざす姿として〈都市のコアとしてのミュージアム〉を掲げ、(1) 大阪の知を拓く、(2) 大阪を元気に、(3) 学びと活動の拠点へ、の3項目のもとに具体的なアクションプランを定めている。これは、大阪の知を拓き発信することで、人々が集い賑わう都市を実現し、大阪を担う市民と歩むミュージアムになることをめざすものである。

地方独立行政法人大阪市博物館機構は、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館及び大阪中之島美術館（令和 4 年初旬開館予定）を管理・運営している。各館及び事務局の事業は、「大阪市ミュージアムビジョン」及び各館の使命などにに基づき、中期計画・年度計画に沿って実施している。

こうした中、令和 2 年の初頭から始まった新型コロナウイルス感染症の影響により、当機構の博物館群は休館や入場制限、また市民の外出制限などにより、来館者数、事業内容、収入等に大きなダメージを受けた。この新型コロナウイルス感染症に対しては昨年度、博物館としての新たな価値向上や収入増を念頭に、CRS (Covid-19 Response Strategy) を作成した。

令和 3 年度の年度計画は、未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中であって、令和 2 年度の実績も参考にしながら、CRS を本格実施に移し、今後の新しい生活様式に沿った事業を展開することで、博物館としての価値向上と持続的な経営を目指し、次の重要事項に重点を置いて策定した。

(1) 来館者サービスと来館者増に貢献する〈展示・施設の整備〉

大阪市立美術館の大規模改修にかかる実施設計を行い、大阪市立東洋陶磁美術館のエントランスの改修の実実施設計に着手する。大阪市立科学館のプラネタリウムにかかる全天周映像システム更新や大阪歴史博物館の展示改装計画を準備するなど、積極的に展示や施設をリニューアルし、一層の魅力向上を図る。

(CRS 戦略 3 価値向上に結び付く各館戦略)

(2) 博物館の基盤活動を支える〈展示環境の整備〉

新型コロナウイルス感染症の影響により来館者が減少し、これまでの大規模な特別展示が成り立ちにくくなっている。常設展示やコレクション展など既存展示資料やコレクションを活かした展示活動による来館者の安定的な確保、展示ケース内 LED化などをはかり、展示の質の向上や環境改善に取り組み、優れた鑑賞環境を提供する。

(CRS 戦略 2 ニーズの把握による新規利用者の確保 CRS 3 価値向上に結び付く各館戦略)

(3) オンラインサービスの向上に貢献する〈博物館活動のデジタル技術応用〉

新型コロナウイルス感染症の影響により、講演会、体験講座、観察会をはじめとする普及活動が行いにくくなったり、ショップにおける販売実績などの落ち込みを回復させ

るため、通常の対面形式の事業に加え、気軽に自宅等から参加できる遠隔講座・教室の積極的な実施、オンラインショップの開設、商品開発を積極的に図り、オンラインサービスによる博物館の普及事業や付帯サービス向上を図る。

(CRS 戦略1 デジタル化によるサービス向上)

(4) 来館者増と博物館機能を向上させるマーケティング及び広報<広報戦略の展開>

新しい生活様式を意識しながら、今後の来館者誘致にかかるマーケティング手法を検討し、博物館に期待することや来館者のニーズをとらえるとともにそれらデータを活用しながら、来館者の誘致を図る機構の広報戦略を検討する。

(CRS 戦略1 デジタル化によるサービス向上 CRS 戦略2 ニーズの把握による新規利用者の確保)

(5) 大阪中之島美術館の開設準備

令和3年度中の開館をめざして、大阪中之島美術館の開設準備を着実に進め、グランドオープンし、中之島美術館の「使命」を果たすスタートを切る。

上記5点を含め、機構全体を通じた統合的な事業と各館事業を調和させ、都市大阪にふさわしい総合的な博物館事業を展開する。

大阪市立美術館

(前 文)

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とし、日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行う。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に
行う。

【令和元年度実績】購入 0 件、寄贈 0 件

イ 博物館活動に有効な資料の寄託確保に努める。

【令和元年度実績】受入 33 件、返戻 58 件

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 館内での総合的虫菌害の管理（I PM）及び収蔵庫の燻蒸を行う。

イ 収蔵庫及び展示室での温湿度管理を継続的に行う。

ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。

エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 継続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。

【令和元年度実績】撮影15 件、20 カット

イ 調査研究に資するため、継続的に研究図書・雑誌・展覧会図録等の資料の収集を行う。

【令和元年度実績】図書・雑誌購入166 点

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 個々のスキルアップをはかるため、調査や研修に職員を派遣して情報収集に努める。

イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。

ウ 館の将来の運営を見据えた専門的な人材の獲得をめざす。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 館蔵品に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和3年度予算目標】著書・論文等10 件、研究発表10 件、コレクション展報告10 件

【令和元年度実績】著書・論文等16 件、研究発表11 件、コレクション展報告22 件

イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。

6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、
他館の結果も参照して分析を行う。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、修復を行う。

【令和3年度予算目標】2件

【令和元年度実績】3件

8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)

ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は実施設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度のリニューアルを目指す。

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金等の外部資金の獲得を目指す。

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)

ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は実施設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度のリニューアルを目指す。(再掲)

(27)単独で扱う

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 常設展における展示替え(11)

コレクション展では、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの絵画・彫刻・工芸など8,400件をこえる館蔵品と、社寺などからの寄託品から作品を選定して展示する。

ア 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示に取り組む。

イ 館蔵品及び寄託品を紹介するため、本年度は「桃山へ、桃山から 中近世工芸の諸相」、「戦国武将像」「春夏養陽—中国の書画—」「雕刻時光 北魏の石像仏教・道教燭刻」「受贈記念 アンコール・ワットの拓本」などのコレクション展、特集展示を10本程度実施する。

【令和3年度予算目標】31,000人

【令和元年度実績】98,471人

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア 本年度6本の特別展のうち、次の4本について、国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携し、自主企画で実施する。

・「豊臣の美術」

4月3日～5月16日 開催日数39日

天下統一を果たし、大坂に政治拠点を定めた豊臣秀吉、およびその一族関わった桃山時代の美術工芸の粋を総覧する。

【令和3年度予算目標】30,000人

・「揚州八怪」

6月12日～8月15日 開催日数57日

清朝中期、揚子江のほとりに繁栄した揚州に集った「揚州八怪」と呼ばれる個性的な書画家たちの魅力を紹介。国内の蔵品に加え上海博物館から名品を借用する。

【令和3年度予算目標】39,900人

・「聖徳太子展」

9月4日～10月24日 開催日数45日

令和4年(2022年)の聖徳太子没後1400年にあわせ、聖徳太子の生涯をたどり、没後

の聖徳太子信仰の広がりを紹介する。

【令和3年度予算目標】73,000人

- ・「第67回全関西美術展」

2月5日～2月15日 開催日数10日

大阪市立美術館が関西圏の作家に出品を募集し、審査をして開催する公募展覧会。

【令和3年度予算目標】6,800人

【令和元年度実績】6,697人

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 展覧会等の関連事業としての講演会、ギャラリートーク等を開催する。

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 研究紀要を刊行し、ホームページ上で公開する。

【令和3年度予算目標】1冊 【令和元年度実績】1冊

イ 特別展の図録を作成・販売する。

【令和3年度予算目標】5冊（うち独自作成3冊、作成協力1冊）

【令和元年度実績】5冊（うち独自作成1冊、共同作成1冊）

ウ 広報誌『美をつくし』を発行する

【令和3年度予算目標】2回

【令和元年度実績】2回

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

ア 作品の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、他館への作品の貸出し及び借用を行い展示の充実に努める。

【令和元年度実績】貸出94件、借用284件

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 特別展において、作品借用など他館と協力する。

【令和元年度実績】大阪中之島美術館からの寄託品で「江戸の四僧」展を開催

イ 他館の学芸員と協力して調査・研究を進め、展覧会でその成果を広く公開する。

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 継続的に館藏品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。（再掲）

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

8) 他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた作品（資料）の保全及び効果的な活用(18)

ア 国内外の博物館・美術館等との協力により、館藏品・寄託品の効果的な活用と保全を図る。

【令和元年度実績】貸出94件、借用284件

イ とりわけ上海博物館・台北国立故宫博物院とは連携を結び、相互に所蔵品を貸借する交流展の開催を目指す。

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア ホームページ等での情報発信を行う。

イ SNS での情報発信を行う。

ウ 広報誌『美をつくし』を発行する。(再掲)

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

ア 観光関連団体との相互の協力体制を構築し、美術館にはない手法での情報発信を進める。

3) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

ア 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。

4) 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開(24)

ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行う。

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

ア 本年度6本の特別展のうち、次の2本について新聞社・テレビ局等と協働し、実施する。

- ・「メトロポリタン美術館展」《仮称》(巡回企画)

11月13日～1月16日 開催日数(予定)50日

世界三大美術館の一つであるニューヨークのメトロポリタン美術館西洋絵画ギャラリーが所蔵品のなかから、巨匠ばかりの傑作65点を展示する。

【令和3年度予算目標】280,000人

- ・「第8回 日展」(巡回企画)

2月26日～3月21日 開催日数21日

日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門からなる日本で最も歴史と伝統のある公募展。

【令和3年度予算目標】40,300人

【令和元年度実績】2,943人(開館6日間で中止)

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は実施設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度のリニューアルを目指す。(再掲)

イ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。

【令和元年度】来館者 2,243名

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

- ア 改修後の運用を見据え施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の見直しを進める。
- イ これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励(28)

- ア 地下展示会室の美術団体への貸出及び館長賞を授与する。
- イ 美術団体と連携し、公募展を開催する。（以下、再掲）
 - ・「第67回全関西美術展」
2月5日～2月15日 開催日数10日
大阪市立美術館が関西圏の作家に出品を募集し、審査をして開催する公募展覧会。
 - ・「第8回 日展」(巡回企画) 2月26日～3月21日 開催日数21日
日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門からなる日本で最も歴史と伝統のある公募展。

5) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

- ア 最寄りのOsaka Metro 駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metro の事業への協力等を通じての広報を推進する。
- イ 天王寺駅周辺の商業施設（あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等）との共同広報展開を継続する。
- ウ 観光関連団体との相互の協力体制を構築し、美術館にはない手法での情報発信を進める。（再掲）

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

- ア あべのハルカス美術館等との相互割引等を行い、新規来館者の増加に努める。
- イ 最寄りのOsaka Metro 駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metro の事業への協力等を通じての広報を推進する。（再掲）
- ウ 天王寺駅周辺の商業施設（あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等）との共同広報展開を継続する。（再掲）

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

(3) 民間企業等との協働等

1) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

- ア 特別展開催にともなうグッズ等の商品開発を行う。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施(35)

- ア 小中学生の美術鑑賞授業の要望に応えレクチャー等を実施する。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

- ア 美術研究所での素描・絵画・彫塑の実技指導を通じて、市民の知識・技能の習得を支援するとともに、広く美術文化の振興、発展に大きく寄与する。

素描部 石膏素描科 前期 実技コンクール 年6回

	石膏素描科 後期	実技コンクール	年6回
	人体素描科	実技コンクール	年6回
絵画部		美術研究所展	年1回
彫塑部		美術研究所展	年1回

イ 要請にもとづき、大阪市立大学等での博物館学関連講座への出講を行う。

【令和3年度目標】博物館展示論、博物館資料保存論、博物館経営論

【令和元年度実績】博物館展示論、博物館資料保存論、博物館経営論

ウ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。(再掲)

【令和元年度】来館者 2,243名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する。(再掲)

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア 研究紀要を発行し、ホームページ上で公開する。(再掲)

イ 広報誌『美をつくし』を発行する。(再掲)

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア 改修後の運用を見据え施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。(再掲)

イ これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲)

(3) 参画機会の提供

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

1) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

ア 地下展示会室の美術団体への貸出及び館長賞を授与する。(再掲)

<CRS 関係> コロナ対策

(1) データベース公開、改修後の館蔵品図録やグッズ作成、教育普及・広報活動等でのソフト展開を見据え、1, (1), 3), アにおいて例年に増して作品のデジタル化を促進する。

・館蔵、寄託品の写真撮影を集中的に行う。

(2) メールマーケティングについても着手し、情報発信はもとより業務効率化や来場促進などについても進めていく。

(3) 動画による情報発信についても試験的に進めていく。

大阪市立自然史博物館

(前 文)

大阪の「自然の情報拠点」として自然史博物館の機能を発展させること、社会教育施設として人々の知的好奇心を刺激し、見つめる学習の援助を行うこと、など館の使命の実現を目指し、人々をとりまく自然のなりたちや、仕組み、変遷を、展示や普及活動を通して広く伝え、調査研究や資料の収集と保存、管理を通して過去から現在、未来へと自然史資料を伝える。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。

【令和元年度実績】大平仁夫コレクション(昆虫)45,000点など115,448点増

イ 収蔵庫など館内の配置を見直し、収蔵余力の確保に努める。今年度は移動式物品棚を昨年度整備した旧第二収蔵庫、棚を移動した特別収蔵庫の再配置と効率化をすすめる。

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。

ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。

エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。

オ 西日本自然史系博物館ネットワークなどとの連携による災害対策の検討をすすめる。

【令和元年度実績】令和2年2月に南海トラフ巨大地震を想定した研究会を実施し、レスキュー協力の検討を行った。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 継続的な資料の登録・整理をすすめ、収蔵資料目録を発行する。

【令和元年度実績】「鳴橋コレクション バラ科キイチゴ属植物目録」を発行

イ 標本資料だけでなく、自然史科学関連の画像・映像資料・絵画資料の収集と整理を進める。

ウ 継続的に市民の学習に資する図書、及び研究資料となる図書の収集を行う。

【令和元年度実績】単行本1,202部、逐次刊行物3,889冊増

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 退職・育休・産休などに伴う欠員を速やかに補充する。

イ スキルアップのため、館内に博物館学関連催事をオンライン・オフラインで誘致実施する。

【令和元年度実績】9月にICOM-NATHIST オフサイトミーティング実施

ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修への参加を進める。積極的にオンライン会議なども活用して進める。

- エ 総務課職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。
- 5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)**
- ア 館蔵資料を活用した研究、および野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。
- 【令和元年度実績】 査読付き論文 20 本、著書 5 冊、その他 224 本 発表 22 件
- イ 西日本自然史系博物館ネットワークや関連学会などと連携して資料の保存科学的研究会、展示手法に関する研究会に参加または誘致開催する。
- 【令和元年度実績】 東京文化財研究所の被災自然史標本の対応マニュアル作成協力。また南海トラフ巨大地震を想定した研究会を行った。
- ウ 科学研究費補助金を活用した現在継続中の研究課題を継続的に実施する。
- 6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)**
- ア 自主企画展の開催時には実施目的を明確にし、その目的・計画に基づいて組織内評価を行い、効果を検証する。
- 【令和元年度実績】 夏期の特別展が巡回展になったため組織内自己評価は実施せず、実行委員会の報告書をもって評価としている。
- イ ミュージアムショップや普及行事についても適宜、アンケート調査や外部有識者によるピアレビューの実施によって、効果検証などの手法開発を試みる。
- 【令和元年度実績】 4月にミュージアムショップに関する研究会を実施した。秋以降のミュージアムショップ事業者の選定を外部委員のレビューを受けて実施した。
- 7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)**
- ア 展示資料を中心に必要に応じた修復を行う。
- 【令和元年度実績】 第5展示室などを中心に実施
- 8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)**
- ア 収蔵庫の再配置、高密度化などを進めていく。(再掲)
- イ 老朽化した建物の計画的整備として、講堂の改修整備を進める。
- 【令和元年度実績】 中央監視盤を改修
- ウ 研究機器などの継続的更新を進める。
- 【令和元年度実績】 生物顕微鏡を一部更新
- エ 照明のLED 化の推進による照明環境の向上に努める。
- 【令和元年度実績】 ナウマンホール天井の水銀灯をLED 化した。
- オ 将来的な展示更新のための調査を進める。情報機器の刷新計画と合わせ、魅力的な展示の実現に向け外部コンサルタントも依頼し、検討を行う。
- 9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)**
- ア 研究活性化のために当面取り組むべき研究課題について新規の応募を科学研究費補助金及び民間研究助成金に対して行う。
- 【令和元年度実績】 新規 5 件、継続課題 7 件採択。この他に、外部機関との共同研究7 件(うち 4 件継続)、民間助成金 4 件が採択された。
- イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。
- 10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)**
- ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。

(26)イで単独掲載

イ 高齢者の参加ニーズなどに関する検討を進める。

【令和元年度実績】 コロナウイルスの影響により3月に予定していたが中止になった

(8)エへ移動ウ 点字パネルの入れ替え、触る展示の充実、読み上げ用テキストのWEB 提供など視覚障がい者対応をすすめる。

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 常設展における展示替え(11)

人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示する。

ア 常設展示室内でのテーマ展示・コーナー展示などを開催する。

- ・ テーマ展示「世界一変な火山展」 4/24～5/30
- ・ ミニ展示「異常巻きアンモナイト」 4月下旬～5/9
- ・ テーマ展示「砂」 7/24～9/26
- ・ テーマ展示「メタセコイア展」 10/9～11/7
- ・ 「自由研究展」 12/11～1/30
- ・ 干支展示 1/5～30
- ・ テーマ展示「岸川椿蔵書」 3/12～4/3

【令和3年度予算目標】 232,700人

【令和元年実績】 3月～5月企画展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展2019～」8月～大山桂貝類学文庫 ミニ展示、12月～「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」1月～「子年展」3月～「日本の古典椿」(予定したが、コロナウイルス感染症により開催できず。YOUTUBEにて公開)

イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。感染症の蔓延など、実施できない場合には、オンラインコンテンツなどを提供する。

【令和元年度実績】 ワークショップは継続的に実施した。2月および3月のワークショップは閉館により中止となり、36回実施。

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

本年度3本の特別展のうち、これまでの調査研究の成果を活かし、関係機関の協力を得て、自主企画展を1本実施する。

- ・ 特別展「アンダーグラウンド展(仮)」4月24日～6月20日

※新型コロナウイルス感染症の影響により開始日を変更。

目で見ることのむずかしい地面の下の世界を紹介する。具体的に大阪の地下を対象とすることで、見えない地下をリアリティを持って感じてもらうとともに、大阪の地史への興味や地学そのものの研究手法への理解を深めてもらう。

展示品は当館所蔵標本を中心とし、適宜文化財研究所などの成果品を用いる。

【令和3年度目標】 入場者数6,915人

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。

【令和元年度実績】 野外観察会、室内実習、ワークショップなど合計152回を企画し、雨天および臨時閉館の影響で15回が中止となった。6,311人(自然史フェスティバルを含めると32,311人)が参加した。

イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。

【令和元年度実績】外来生物展に関連し、2019年4、5月及び12月に行った。また3月にも特別展関連の講演会を企画したが延期となった。

ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。

【令和元年度実績】日本鱗翅学会、日本堆積学会の大会を実施し、それぞれ公開講演会を行った。このほか地学団体研究会、関西菌類談話会との共催講演会を実施した。3月に関西自然保護機構との共催シンポジウムが予定されていたが中止となった(年間5回)

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 研究報告、自然史研究の発行とホームページ上での公開を進める。

【令和元年度実績】発行、公開した

イ 収蔵資料目録・ミニガイドなどを継続的に発行する。

【令和元年度実績】収蔵資料目録51集「鳴橋コレクション バラ科キイチゴ属植物目録」を発行。ミニガイドNo.32「町中のコケ基本50種」を編集発行した。

ウ 特別展「アンダーグラウンド」解説書を作成する。鳥の巣展の解説書を準備する。

【令和元年度実績】「知るからはじめる外来生物」を発行した。特別展は開催できていないものの、先行して販売を開始。

エ 友の会発行の月刊誌Nature Studyを12冊監修、編集する。

【令和元年度実績】監修・編集し発行された

オ 出版社と連携した学術書の発行を検討する。

【令和元年度実績】山と溪谷社から「きのこの教科書」が発行された他、学芸員が関わった各種学術書が発行された。

カ SNS (Facebook, Twitter) やYouTube、ブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。

【令和元年度実績】HPでの新着情報64件、Twitter 200件、FaceBook120件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを9900人がフォロー、FaceBook 2200人がフォローしている。その他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。

【令和元年度実績】貸し出し12件、借り受け15件

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。

イ 将来の特別展示などの企画、及び常設展示の更新につながる共同研究を模索する。大阪歴史博物館学芸員などと共同研究員の科学研究費課題を申請中。

ウ 共同の展示企画を準備

令和3年7月に実施予定の「アインシュタイン展」にむけて大阪市立科学館と準備を進めていく。

エ 科学研究費に関連して、職員向け研修を機構内に公開して実施

令和2年度も倫理研修を「論文のオーサーシップの基本的な考え方」を実施した。

オ 市民向け共同事業の開催

大阪市立科学館と協力して「ジオカーニバル」を実施する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 標本資料、自然史科学関連の画像・映像資料、絵画資料について科学研究費などを活用したデジタル化を進め、アーカイブの形成を図る。デジタル化のさらなる加速に向けて検討を行う。講演やシンポジウムもYOUTUBEなどを活用してアーカイブ化、公開する。

【令和元年度実績】科学研究費「動画を博物館の「標本」として収集・収蔵・利用公開するための課題解決と環境整備」の成果として、映像(動画資料)を中心に進展。著作権などの契約も進めている。静止画のコンテンツ登録もシステムの改良を次年度に向けて検討中。

イ 標本情報について、Science-Museum Net, GBIF などを通じた継続的な公開を進める

【令和元年度実績】5,000件登録、公開

ウ 図書情報について、市立中央図書館などとの共有による活用促進に向けた準備を進める。

【令和元年度実績】図書館情報展などに所蔵図書状況などを公開。

エ 研究報告などの研究成果をリポジトリによりインターネット公開を進める。

【令和元年度実績】72件の論文・レポートを登録、公開した。

8) 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用(18)

ア 大阪市立中央図書館、及び各区の図書館、大阪府立中央図書館での巡回展示などを実施する。

イ 資料の保存状況や目的や手法を鑑みながら、研究目的での資料の相互貸借を行い、資料の研究をすすめる、学術的な価値の向上に努める。(再掲)

ウ 大阪市理科系博物館連携クラスターにもとづいた大阪大学との研究交流を進める。

【令和元年度実績】中之島「アートエリアB1」にて「これからの自然科学・博物館と市民」を開催、川端館長が登壇。

9) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

ア 大阪市との調整が完了次第、学術関連催事を中心に、ポーチ(クジラ展示下)及びナウマンホールなどを活用したユニークベニュー事業に取り組む。

【令和元年度実績】規定の整備が遅れたため、ユニークベニュー事業は行うことができなかったが、貸し館として「『友好の輪 和と美の世界』ートキ文化展」を実施。

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア ホームページ、Facebook, Twitter などでの情報発信を継続して行う。特にYoutube, おうちミュージアムなどと連携した取り組みの発信を強化する

【令和元年度実績】新着情報64件、ツイッター200件、フェイスブック120件を投稿した。オフィシャルアカウントはTwitterで9900人、FaceBookで2200人がフォローしている(令和元年度末時点)

イ 車内放送、ポストカード、学校向け案内など多様な手段を用いて広報を実施する。

【令和元年度実績】車内放送や学校向け案内を実施している。ポストカードは昆虫展のみ実施

ウ 特別展などにおいて、テーマに相応しいイラストレーターやデザイナーの起用した魅力的なチラシ・ポスターの作成に努める。同時に、Web やグッズなどへの展開による効果的な特別展イメージ訴求に努める。

【令和元年度実績】外来生物展の広報は写真を基調としたものになり、今回はイラストレータ

ーは採用しなかったが、製作者と学芸員の検討によりクイズ形式の訴求力のあるポスターとすることができた。

2) マスメディア等への積極的な情報発信 (21)

ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 (22)

ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。

【令和元年度実績】 展示室内、券売のパネルサインを一部見直した。また、ICOM 開催に合わせて仏語パンフ作成した。

3) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 (23)

ア 長居植物園、セレッソ大阪などと連携した情報発信に努める。

【令和元年度実績】 昆虫展においてセレッソとも連携イベントをおこない、サイン掲出などに共同で実施した。

イ 咲くやこの花館・動物園など大阪周辺の生物多様性関連施設との連携した広報に努める。

【令和元年度実績】 咲くやこの花館や動物園と資料の収集やイベントへの協力、広報活動で協力して実施した。

ウ 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。

4) 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開 (24)

ア 近隣の自然関連団体への学術的指導や学芸員による講演などを通じた広報活動を行う。

【令和元年度実績】 大阪自然環境保全協会、こどものためのジオカーニバル、近畿植物同好会、関西菌類談話会、日本野鳥の会、日本自然保護協会をはじめ、多くの自然関連団体への指導や講演を行っている。

イ 外部の普及誌・学術誌の執筆を行う。

【令和元年度実績】 査読付き論文、査読なし論文および雑誌記事、書籍など多数執筆（著書・論文250 編）

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致 (25)

ア 読売新聞社との共催による「アインシュタイン展」、NHKと連携した「ミラクルプランツ展（仮称）」を実施する。令和4 年度以降の企画に向け各社と準備をすすめる。

・「アインシュタイン」展（巡回企画）7 月17 日～10 月10 日

本特別展では、ノーベル賞受賞100 周年を記念し、アインシュタインの生涯、光電効果や相対性理論などの研究業績とともにアインシュタインと日本の関係を紹介する。特に研究業績については、ゲーム性を取り入れた体験装置や映像技術を駆使し、人物像については様々なエピソードや実物資料により、興味関心を喚起していく。

【令和3 年度目標】 入場者数69,400 人

【令和元年度実績】 「昆虫展」156,415 人

・「ミラクルプランツ（仮）」展（巡回企画）令和3 年1 月15 日～4 月3 日

光合成という、太陽エネルギーから有機物を作り出す能力を手に入れたことで、地球上の生命存在にとって必須の働きをしている植物は、人間と同じ祖先から出発し、今や地球上で最も成功している生物群である。食糧生産から環境維持まで、人類の生存にとってなくてはならない存在として、最先端科学で明らかにされつつある植物という生命の実体をリアルに伝える。地球上で人類が共に生きる存在としての植物の重要性に新たな視点をもたらし、SDGs 的な観点の重要性を伝える。

【令和3 年度目標】 入場者数81,400 人

【令和元年度実績】 「昆虫展」156,415 人

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。(再掲)

イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討し進める。

ウ 高齢者の参加ニーズなどに関する検討を進める。(再掲)

エ 授乳場所など、来館者ニーズに応じたサービス提供を進める。

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲)

イ 常設展示場内における外国語表記について QR コードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。

ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励(28)

ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場としてこどものためのジオカーニバル(10月)大阪自然史フェスティバル(11月)を開催する。

【令和元年度実績】自然史フェスティバルを令和元年11/17-18に実施、来場者数26,000人、出展団体数130 団体。

イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。

【令和元年度実績】大阪自然史センター、大阪自然環境保全協会、大阪みどりのトラスト財団を始め、多くの団体に指導、支援を実施。

ウ アーティストによる標本活用など、芸術分野とのコラボレーションを継続して模索する。

【令和元年度実績】11/30-12/1 に日本書道技術師認定協会による書道展を実施

エ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。

【令和元年度実績】3月に地域自然史と保全大会を企画したが閉館により中止。

オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。

【令和元年度実績】11/23 に大阪府高等学校生徒生物研究発表会を実施、33 題の発表

5) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

ア 連携のための情報収集を行う。

【令和元年度実績】テレビ局番組タイアップや、各種媒体との連携を一部、昆虫展で実施

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

ア 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などと連携した情報発信に努める（再掲）

イ 最寄のOsaka Metro 車内での放送やポスター掲出、Osaka Metro の事業への協力などを通じての広報を推進する。

【令和元年度実績】放送やポスター掲出は実施、Osaka Metro の「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者を呼び込んでいる。

ウ 商業施設との連携・商店街との連携などによる広報及び誘客をすすめる。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施(31)

ア 大阪市環境局などの開催する環境イベントほかに協力する。

【令和元年度実績】大阪自然史センターと協力して実施

イ 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などの連携に努める。（再掲）

(3) 民間企業等との協働等

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32)

ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。

【令和元年度実績】ミュージアムショップサービスを、臨時休館期間を除き間断なく提供した。

イ 自動販売機設置などアメニティを間断なく提供できるように努める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア ミュージアムショップ運営会社のグッズ開発に協力し、ショップの魅力向上に努める。

イ 特別展などに合わせた新規グッズの開発に協力し、特別展の認知向上にも努める。

【令和元年度実績】昆虫展に際し、旧モデルのリニューアルも含めT シャツ、サコッシュなど新規4 種を開発、バッチなどは多数開発した。外来生物展に向けてもT シャツなどを開発。

3) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(34)

ア 学芸員の知見を求める自治体などの自然環境行政や企業などの環境保全活動の要請にこたえる。

【令和元年度実績】大阪市、大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府などの環境行政に委員などとして協力を行っている（行政委員25 件）。

イ 館蔵資料やその情報を活用した自然環境保全など、自然環境行政、環境活動に協力する。

【令和元年度実績】「堺市レッドリスト・堺市外来種アラートリスト」の改訂に協力中、十津川村の村史にデータ提供中など、事例多数。

ウ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。

【令和元年度実績】月例ハイク、合宿などを含め連携を継続

エ 学芸員の学術的知見を必要とする民間団体、市民団体の活動に協力する。

【令和元年度実績】業務内、兼業を含め講師派遣を多数行っている。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施(35)

ア 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。

【令和元年度実績】子どもワークショップを38回分企画したが、2月後半以降の行事休止、臨時休館により6回が実施できなかった。

イ 常設展での小学生・中学生向けワークシート、学習用貸出資料の開発と提供を継続的に行う。

【令和元年度実績】継続的にワークシート、貸出資料を提供中、新規のキットなども3月末以降、ホームページに提供、「おうちミュージアム」として休館中の対応を積極的に行った。

ウ 特別展での見学用「ワークシート」、「キッズマップ」、「キッズパネル」の開発と提供を行う。

【令和元年度実績】「外来生物展」に向けた「キッズマップ」及び「キッズパネル」、ワークシートを開発したが、特別展の開催延期のため未公開。

エ 学校団体を対象とした遠足下見、説明会、相談対応を実施する。

【令和元年度実績】随時実施

オ 事前の要請に応じた博物館内での学芸員による特別授業を実施する。

【令和元年度実績】18校園に実施

カ 中学生、高校生、大学生への職業体験、インターンに対応する。

【令和元年度実績】5校から受け入れ

キ 常設展での自己学習型シート「たんけんクイズ」の配布を継続する。

【令和元年度実績】実施した。

2) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

ア 教員のための博物館の日を開催し、学校利用のための研修や相談を集中実施する。

【令和元年度実績】8/8に実施、16件の研修プログラムを実施、120名が参加した。この他、館内で5件の研修を実施。

イ 教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し、利用法の周知に努める。

【令和元年度実績】休館に伴い年度末は発行を見合わせ、2号の発行にとどまった。

ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア 博物館実習などを通じ、学生への支援を行う。

【令和元年度実績】夏期20名、秋期13名、冬期に21名、合計54名を受け入れた。

イ 要請にもとづき、大学での博物館学関連講座への出講を行う。

【令和元年度実績】計画通り実施

ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。

【令和元年度実績】日常的に対応。利用の成果が植物分野だけでも17論文公表されている。

エ ジュニア自然史クラブを通じた自然史科学に興味を持つ中高生への直接的な指導を行う。

【令和元年度実績】111名がメーリングリスト登録、12月までに7回の行事を実施、延べ181名が参加。

オ 周辺地域のSuper Science Highschool 指定校などへのサポートを要請に基づいて行う。

【令和元年度実績】高校生物教育研究会などを通じ支援(11/23 生徒研究発表会などで発表)

カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲)

キ 大学生ワークショップサポートスタッフへの教育学的指導を含めたエデュケーターとしての育成に努める。

【令和元年度実績】サポートスタッフに12 大学26 名が登録、活動中

ク キャンパスメンバーズ対応館であることを PR し、大学生等の来館を促す。

【令和元年度実績】来館者 1,166 名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。(再掲)

イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。(再掲)

ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。(再掲)

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開(再掲)

イ 共同研究報告書、館蔵資料集などの継続的な発行(再掲)

ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。

【令和元年度実績】12 月20 日館報44 号を発行、リポジトリに掲載した。

エ SNS やブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。(再掲)

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲)

イ 常設展示場内における外国語表記について QR コードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。(再掲)

ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。(再掲)

(3) 参画機会の提供

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進(41)

ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を実施して活動が充実するよう継続して検討を行う。

【令和元年度実績】延べ143 名が事前研修などをうけ、補助スタッフとして各種野外行事・実習などを支援した。

イ 学生むけのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。

【令和元年度実績】26 名の学生が参加し、研修を受けて年度末にはプログラムの企画を行った。

ウ 関連NPO 法人などとの協働事業を積極的に実施する。

【令和元年度実績】大阪自然史フェスティバル、東北被災博物館支援、各地域でのワークショップなどの実施で大阪自然史センターと、研修や ICOM 対応などで西日本自然史系博物館ネットワークと共同するなど各NPO と連携を進めている。

エ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。(再掲)

【令和元年度実績】月例ハイク、合宿などを含め連携を継続

2) 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定(42)

ア 市民連携のあり方を検討する館長諮問の協議会を設置し、ボランティアや NPO とのさらなる連携などに関する方針を検討する。

【令和元年度実績】協議会についてはまちづくり関係者、コミュニティビジネス関係者、NPO 経営アドバイザーなどの候補を決定し、打診し、打ち合わせを目指したが臨時閉館に伴い延期した。

イ 友の会の総会および評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。

【令和元年度実績】評議員会(12月までに2回実施、12月9項3月までに3回実施予定)、友の会総会(1月)、事業WG(5回実施)などで意見聴取した。

ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。

【令和元年度実績】自然史センターと毎月協議を実施、事業報告会は4月27日に実施した。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。(再掲)

イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲)

ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。(再掲)

エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。(再掲)

<CRS 関係> コロナ対策

(1) クレジット払いシステムの導入の検討

現行の提携先以外でも入館料の支払いをクレジットで行えるようにし、来館者の利便性を図る。

(2) 民間との協働広報

クレジット導入等にあたりその会社の広報ツールを利用して、協働による館の宣伝を行う。

(3) 講堂の改修に伴う、ネットワークの強化

講堂の改修により座席の間をあける。また、web配信も強化する。講堂利用に関する、利便性、魅力を高める。

(4) オープンセミナーの Youtube 配信の継続

視聴者からのスーパーチャット(投銭)などによる自発的支払いなどの導入を図る。

大阪市立東洋陶磁美術館

(前 文)

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指し、東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行う。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。

【令和元年度実績】 寄託作品 8 件 (作品数43件)

新規受入 4 件 (作品数15件)、継続 4 件 (作品数28件)

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 収蔵庫・展示室の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

【令和 3 年度目標】 定期清掃 (収蔵庫、資料展示室、李博士研究室) 12 回 (月 1 回)

【令和元年度実績】 展示室清掃 (前年度の環境調査結果に基づく) 2 回

イ 館蔵品の確認を計画的に行う。

【令和 3 年度目標】 国宝 2 件、重文 13 件、重要美術品 9 件及び主要作品 250 件等

【令和元年度実績】 国宝 2 件、重文 13 件、寄託新規受入作品 15 件

ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。

エ 新規受入作品の登録を継続的に行う。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 継続的に館蔵品を撮影し、データベース化するとともに、オープンデータ化を進める。

【令和 3 年度目標】 デジタル撮影 作品 24 件 (オープンデータ化作品 20 件、現代陶芸柳原睦夫作品 4 件)

【令和元年度実績】 デジタル撮影 作品 45 件(中国陶磁 20 件、木村盛康作品 22 件、現代陶芸 3 件)

イ 継続的に研究図書などの収集を行う。

【令和元年度実績】 購入図書資料 276 点(図書 82 点、雑誌 194 点)

ウ グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 専門的人材の採用・育成と職務の役割を進め、国際的専門美術館としての体制の充実を図る。

【令和元年度実績】 新規学芸員公募1 名、学芸事務の採用1 名、インターン受入 1 名

イ 学芸員のスキルアップをはかるため、国内外での研修参加を推進する。

- 【令和元年度実績】会議、研修等参加のべ 6 名
- ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担、職制などを模索する。
- 5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)
- ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。
- 【令和元年度実績】著書 1 件、論文等 14 件、研究発表 10 件、講演会等 14 件、取材協力 6 件、科研 5 件
- イ 保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。
- 【令和元年度実績】会議、セミナー等参加のべ 7 名
- 6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)
- ア 入館者に対するアンケート調査（ウェブ版含む）などを展覧会ごとに実施し、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。
- 【令和 3 年度目標】開館期間中 1 ヶ月に 1 回(最大 11 回)
- 【令和元年度実績】特別展アンケート 12 回(臨時休館のため、3 月は実施できず)
- イ 受付・看視スタッフの日報などにより、来館者の生の声を収集し、運営に活かす。
- 7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)
- ア 館蔵資料の中から、資料の状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。
- 【令和 3 年度目標】5 件 5 点
- 【令和元年度実績】7 件 7 点
- 8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)
- ア 本館エントランスを中心とした大規模改修計画の実施設計作業を実施する。
- イ 老朽化した展示ケースはじめ展示室の改修などを検討する。
- ウ LED 照明など展示機器の更新を検討する。
- 9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)
- ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行う。
- 【令和元年度実績】新規申請 2 名 3 件、継続 4 件（研究代表者 3 名、研究分担者 1 名）
- イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。
- 【令和 3 年度目標】新規申請 1 件（前年度に引き続き「館蔵資料オープンデータ化による国際発信（館蔵品 20 件）」の拡充のため）
- 【令和元年度実績】採択 1 件（フランス語パンフレットの作成など）
- 10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)
- ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。
- イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた環境整備の検討を進める。
- (2) (P26, (27)へ移動) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信
- 【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】
- 1) コレクション（常設）展における展示替え(11)
- 安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌（イ・ビョンチャン）コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を展示する。

【令和3年度目標】28,200人

【令和元年度実績】105,375人

ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点（特別展・企画展開催時は規模縮小）をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。

イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する下記の特集展示を開催する。

・「柿右衛門—Yumezuras セレクション」2020年11月21日～2021年7月25日

・受贈記念「柳原睦夫 花喰の器」8月11日～11月28日

・「福井夫妻コレクション 古九谷」12月1日～2022年2月6日

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

以下の2本の特別展を実施する。

・「黒田泰蔵」2020年11月21日～2021年7月25日、開催日数206日うち2021年度100日

陶芸家の黒田泰蔵（1946-）は、静謐な白磁の造形で世界的に知られている。本展ではこれまで国内の美術館では紹介される機会の少なかった黒田の活動を、イセ文化基金所蔵品と当館所蔵品を中心に、白磁作品約60点で紹介する。

【令和3年度目標】9,800名

・「希濶廬コレクション 清朝陶磁の精華（仮称）」8月11日～2022年2月6日、開催日数148日

本展は、香港在住の清朝陶磁コレクターとして著名な希濶廬（きうんろ）氏の所蔵品から、日本ではほとんど見ることのできない日本初公開の清朝陶磁を初め、明・清の宮廷用磁器や玉器など86点を紹介する。

【令和3年度目標】18,400名

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する。感染症予防対策のため、オンラインによる実施等を検討する。

【令和3年度目標】2回

※今年度目標値数値項目なし・実績値のみ提出

【令和元年度実績】26回

イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する。感染症予防対策のため、オンラインによる実施等を検討する。

【令和3年度目標】1回

※今年度目標値数値項目なし・実績値のみ提出

【令和元年度実績】2回

ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。

【令和3年度目標】2022年2月頃予定

【令和元年度実績】2020年3月14日予定だったが、新型コロナウイルスの影響で次年度以降に延期

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行販売などを行う。

【令和3 年度目標】編集発行 1 件、編集 1 件

- ・特集展「福井夫妻コレクション 古九谷」展図録の編集
- ・特集展「柳原睦夫 花喰の器」展図録の編集、発行
- ・館藏品図録『大阪市立東洋陶磁美術館コレクション選』の販売

【令和元年度実績】編集発行 3 件、編集 2 件、再版 1 件

- ・館藏品図録『大阪市立東洋陶磁美術館コレクション選』編集・発行
- ・特別展「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションーメトロポリタン美術館所蔵」の編集（共同編集）
- ・特別展「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションーメトロポリタン美術館所蔵」インスタレーション記録集『GATE 四代田辺竹雲斎』編集・発行
- ・特集展「朝鮮時代の水滴一文人の世界に遊ぶ」図録の校正・再版
- ・特集展「受贈記念 木村盛康一天目のきらめき」デジタル図録の編集・発行（HP 上での無償頒布）

イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。

【令和 3 年度目標】2022 年 2 月頃発行予定

【令和元年度実績】李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(13) 「耀州窯青磁と高麗」の刊行（2020 年 3 月 14 日刊行）

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館藏品の魅力の発信に努める。

【令和元年度実績】貸出件数 3 回、貸出作品数計 16 件

イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用を行う。

【令和元年度実績】

- ・文房四宝展：国内個人コレクター所蔵作品
- ・フィンランド陶芸展：外国個人コレクター所蔵作品

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 大阪中之島美術館（準備室）や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、国立国際美術館やこども本の森 中之島など中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を目指す。

イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。（再掲）

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。

【令和3 年度目標】新撮画像の既存データベースへの追加登録 180 件

【令和元年度実績】45 件（中国陶磁 20 件、木村盛康作品 22 件、現代陶芸 3 件）

イ 館藏品のデジタル画像データのオープンデータ化を進める。

【令和 3 年度目標】20 件

【令和元年度実績】—

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

8) 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用
(18)

ア 相互協力提携のある台北・国立故宫博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や
学術交流などを実施する。

9) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア ホームページ(4か国語対応)、館案内パンフレット(5か国語)、年間展示予定、ポ
スター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTube などにより情報発信を継
続して行う。

イ グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報
発信を継続的に行う。(再掲)

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

ア マスメディアなどへのプレスリリースを実施する。

イ マスメディアなど向けの展覧会プレスプレビューを実施する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定
(22)

ア これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実にな
らぬ。

3) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展
開(23)

ア 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。(P26, (30)へ移動)

イ 中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力を
実施する。

4) 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開(24)

ア 国内外の関連雑誌等と提携して館藏品に関する研究成果や展覧会情報等を発信す
る。

【令和3年度目標】7件

【令和元年度実績】5件

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

本年度の特別展2本はいずれも自主企画として実施する。

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する(再掲)。

イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた環境整備の検討を進める(再掲)。

ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化
の検討を進める。

エ 館内Free Wi-Fiの提供を継続して行う。

オ 年間パス販売などによるリピーターの確保に努める。

【令和3年度目標】販売件数 40 枚

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア 平常展示における主要館蔵品 60 点の多言語対応音声ガイド機のレンタル(有料)に代わり、無料作品解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供を開始する。

【令和3年度目標】ダウンロード数を指標とする

【令和元年度実績】レンタル件数計 464 台

イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。

ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める。(再掲)

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に努める。

イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を実施する。

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

ア 国立国際美術館をはじめ、中之島エリアの関連施設との広報協力を行う。

イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行う。

ウ 国立国際美術館など近隣関連施設との相互割引を実施する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施(31)

ア 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加や水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行う。

イ 「こども本の森 中之島」との連携を検討する。

(3) 民間企業等との協働等

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32)

ア 民間事業者による魅力ある喫茶の運営を継続して実施する。

イ 来館者サービスの充実のため、ミュージアムショップのリニューアルを検討する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進する。

3) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(34)

ア 館蔵資料の画像データ提供及び、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体活動の要請に応える。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

- ア 教員研修・教員のための博物館の日への協力を行う。
- イ 館蔵品画像オープンデータ化を通し、教材への利用推進を図る。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

- ア 東洋陶磁研究の世界的な拠点として、外来研究員や研修生（インターン）の受け入れを推進する。

【令和 3 年度目標】研修生（インターン）1 名

【令和元年度実績】研修生（インターン）1 名

- イ 博物館学を開講する大学の見学実習の受け入れを行う。

【令和 3 年度目標】2 大学

【令和元年度実績】5 大学 97 名

- ウ 館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援する。

- エ キャンパスメンバーズ対応館であることを PR し、大学生等の来館を促す。

【令和元年度】来館者 874 名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

- ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する。（再掲）

【令和 3 年度目標】2 回

【令和元年度実績】26 回

- イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する。（再掲）

- ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。（再掲）

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

- ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行う。（再掲）

- イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。（再掲）

4) 多言語表記等による外国人の受け入れ体制の充実(40)

- ア 平常展示における主要館蔵品60 件の多言語対応音声ガイド機のレンタル（有料）に代わり、無料作品解説アプリ（「ポケット学芸員」）の提供を開始する。（再掲）

- イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。（再掲）

- ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。（再掲）

(3) 参画機会の提供

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進(41)

- ア 当館活動に賛同・支援する機会を広く提供するため、ボランティア制度の再検討と新たな協賛制度を検討する。

(37)アへ移動

<CRS 関係> コロナ対策

(1) 既存サービスのデジタル化

ア 民間事業者の活用によるキャッシュレス化とチケットレス化を推進する。

(2) デジタル化による新規事業の展開

ア 館蔵品の魅力と付加価値を高めるため館蔵品に関する8K 独自コンテンツ制作の企画設計を実施する。

イ リモート事業（講演会、講座等）を実施する。

(3) 新規利用者層の開拓

ア Web アンケートやSNS などを活用した広報戦略を展開する。

(4) 美術館の価値向上

ア エントランスの改修に伴いカフェ、ミュージアムショップ等の付帯設備の充実を検討する。

イ 館蔵品の魅力を引き立たせる展示環境の魅力向上のため、高演色LED 照明と国宝用免震装置付独立ケースの導入を検討する。

ウ 館蔵品の充実を図るため、現代陶芸の収集と展示を検討する。

大阪市立科学館

(前 文)

科学を楽しむ文化の振興を図るため、主に物理学・化学・天文学・気象・科学技術に関する調査研究、資料の保存、管理、収集、展示、プラネタリウムの投影、教育普及等の事業を行う。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造・発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした分野の新規資料を収集し、科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。

【令和元年度実績】展示物の改修・改善等20 件

イ 大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類等実物資料の収集を行う。

【令和元年度実績】資料寄贈10 件、購入・制作2 件、借用15 件

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 常設稼働展示品を保守管理し、故障、運用停止を可能な限り少なくするよう努める。

イ 特に重要な資料に関しては、機械警備などによるセキュリティ確保を図る。

ウ 所蔵資料の出し入れを記録する。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供する。

- ・古代の宇宙観 (6 点)
- ・学天則 (3 点)
- ・江戸時代の天文書 (6 点)
- ・西洋の古書 (3 点)

【令和元年度実績】3 件

イ 継続的に図書、研究図書の収集を行う。

【令和元年度実績】57 点

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 各種学会・研究会、講習等に随時参加し、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。

イ 国内・海外の施設との人材交流や短期～長期の留学を検討・実施する。

ウ プラネタリウム、サイエンスショーの制作時と制作後の組織内評価や、常設展示の改良評価の実施を通じて、学芸員の資質向上を図る。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和元年度実績】著書・論文等24 件、研究発表7 件

イ 資料保存、展示手法に関する研修に参加するなど、最新の情報の収集に努める。

ウ サイエンスガイドリーダーから展示物等について意見徴収し、展示物等の改善・改修のための調査研究を行う。

6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア 入館者の満足度等を調査、分析、評価し、館の運営、事業内容の改善を行うなど、住民のニーズを把握し、それに応える魅力ある事業を行う。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

ア 科学に関する展示は、情報の更新や老朽化などが起こるため、計画的な改修・改装を実施する。

【令和元年度実績】展示物の改修・改善等20件

8) 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(8)

ア 第4次展示改装2期目の検討を行う。

イ 常設展示品・展示場の老朽化、安全対策の計画を行う。

ウ プラネタリウムホール及び全天周映像システム更新の計画を実施する。

エ 受変電設備更新、給排水設備更新をはじめとした各種施設整備の計画を行う。

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金をはじめとした各種研究助成金を獲得するため、学芸員が新規応募を行う。

【令和元年度実績】新規応募10件

イ 文化庁補助金「地域と共同した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(10)

ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッドなど、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。

イ トイレ洋式化などの計画策定を進める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信

各館の魅力を幅広く伝える各種の博物館等活動を展開するとともに、他の館・機関と積極的に連携する。

1) 常設展における展示替え(11)

「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで模型・装置・実物などによる展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。

【令和3年度目標】常設展示入場者 143,000人

【令和元年度実績】常設展示入場者 405,825人(参考)平成30年度 203,070人、平成29年度 379,021人、平成28年度 375,376人、平成27年度 368,147人

ア 実験装置、観測装置の実物資料静展示や体験型展示を設置する。

【令和元年度実績】公開常設展示物 221点

イ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3か月に1本実施する。

【令和元年度実績】サイエンスショー演示回数 997回 見学者数 69,246人

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア プラネタリウムの新プログラムを3か月に1本制作・投影するほか、特別プログラムを年1本制作する。

【令和3年度目標】プラネタリウム入場者数 137,000 人

【令和元年度実績】351,932 人（参考）平成30年度実績 215,558 人、平成29年度実績 341,011 人、平成28年度 356,694 人、平成27年度 353,786 人

イ 企画展「アインシュタインがみた大阪」(仮)、「科学とアート」(仮)を実施し、世界的な科学者の業績や、一般に広く利用される科学知識について紹介することにより、市民の興味を喚起する。

【令和3年度目標】開催期間中展示場観覧者数 30,000 人

【令和元年度実績】（企画展開催期間中の常設展示場観覧者数）112,884 人

ウ プラネタリウムや展示等の各種事業において、学芸員の専門性を生かして、幅広い層にアピールするプログラムを開発する。

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。

【令和元年度実績】22 件

イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。

【令和元年度実績】展示ガイド活動延べ 1,502 名、エキストラ実験ショー実施回数 319 回

ウ 館外に出張しプラネタリウムやサイエンスショー、講演等を実施するアウトリーチ活動を実施する。

【令和元年度実績】22 件

エ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。

オ 随時、来館、電話による問い合わせ対応を行う。

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 学芸員の調査研究成果などを、学会発表や研究報告の出版、HP を通じて公開する。

イ 月刊誌「うちゅう」を発行する。

【令和元年度実績】12 冊発行

ウ 展示解説の動画配信や SNS ツールを利用した情報発信を行う。

エ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

ア 展示物、資料、当館制作の企画展の貸し出しを行う。

【令和元年度実績】展示物貸し出し1件 資料貸し出し3件

イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。

【令和元年度実績】2 件

6) 各館の枠を超えた知識・経験等の共有及び、展示や共同広報等での戦略的連携(16)

ア ノーベル賞受賞 100 周年記念特別展「アインシュタイン」を自然史博物館と共催で開催する。

イ 自然史博物館と協力して、こどものためのジオ・カーニバルの実施に協力する。

ウ 文化庁補助金「地域と共同した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。（再掲）

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を行うとともに、広報や画像提供サービスに利用する。

8) 他の博物館等や関連施設との支援や協働を通じた相互の資源の保全を含む効果的活用(18)

- ア 大阪大学、大阪市立大学など近隣大学、各種研究機関と調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。
- イ 大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類等実物資料の収集を行う。(再掲)
- ウ 気象台や電気協会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。
- エ 第12回展示研究大会開催に協力し、同大会開催の継続的支援を行う。
- オ 全国科学博物館協議会をはじめとする各種協議会・会議等へ参画する。
- カ 中之島科学研究所事業やその人脈を通じて、調査研究や事業の質の底上げを図る。
- キ ドイツ博物館やクエスタコン(オーストラリア国立科学技術センター)など海外の先進館との交流を実施する。
- ク 当館の知見を生かした他科学館等に対する、展示製作等のコンサルティングを行う。

9) 各館の建物及びその附帯施設等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

- ア プラネタリウムやアトリウムを活用したイベントを実施することにより、需要創出を図る。

(3) 戦略的広報の展開

時機やニーズを捉えた戦略的な広報活動を展開する。

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

- ア ホームページ、Twitter、YouTube等を利用した情報発信を行う。

【令和元年度実績】ツイート数 606件、YouTube 動画公開数 89件

- イ 月刊誌「うちゅう」を発行する。(再掲)
- ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行する。
- エ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

- ア 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。
- イ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。(再掲)

3) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

- ア チケット発券システム等により、来館者属性や来館動向を調査分析し、データに基づいた効果的なマーケティング、プロモーション、広報活動を実施する。

4) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

- ア 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。

5) 各館の職員の専門的な知識及び技術を活かした効果的な広報活動の展開(24)

- ア 情報誌・新聞・テレビ・ラジオなど様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。

2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備

多様な利用者を念頭に、ソフトの充実や受入れ体制の整備を図る。

1) メディアなどと連携した特別展や企画展の開催（再掲）（25）

ア 読売新聞社が主催で参画する「青少年のための科学の祭典」を実施する。

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。（再掲）

イ 救護室、おむつ交換用ベビーベッドなど、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。（再掲）

ウ トイレ洋式化などの計画策定を進める。（再掲）

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。

イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。

ウ 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。

エ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。

4) 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供および当該団体の活動の奨励(28)

ア 科学館大好きクラブ、こどものためのジオ・カーニバル企画委員会、青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会などの活動を支援し、館内での展示解説などの機会を提供する。

5) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

ア 旅行社などを通じた来館誘致や、個人でのインターネットによる展示場やプラネタリウム予約・決済システムなどを活用する。

(2) 周辺の施設や事業者との連携

近隣の施設や事業者と積極的に連携する。

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの商業施設や交通事業者との連携による広報や誘客(30)

ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR 等の交通機関にポスターを掲示する。

イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。

ウ Osaka Metro の「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。

エ 国立国際美術館との相互割引を実施する。

2) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施(31)

ア 中之島地域のエリアネットワーク（アートエリア B1、中之島ウエストエリアプロモーション等）と連携したイベントに協力、実施する。

イ モバイルプラネタリウム、サイエンスショーなどのアウトリーチプログラム等での連携を行う。

(3) 民間企業等との協働等

民間企業等を対象とした支援や協働を推進する。

1) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32)

ア 民間企業と連携したオリジナル商品の開発、販売を行う。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア 企業の協力による展示の製作を行う。

3) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(34)

ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供する。(再掲)

- ・古代の宇宙観 (6 点)
- ・学天則 (3 点)
- ・江戸時代の天文書 (6 点)
- ・西洋の古書 (3 点)

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援

こどもや教員向けメニューの充実や支援強化に取り組む。

1) こども向けワークシートの作成やワークショップ等の実施(35)

ア 学習指導要領に対応した展示場ワークシートの作成とその利用促進を図る。

イ 学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を作成する。

【令和元年度実績】206 回

ウ 幼児～小学校低学年を対象とした展示コーナーを常設するとともに、プラネタリウムに関しても「ファミリータイム」を実施する。

【令和元年度実績】415 回

エ 小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。

オ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。

【令和元年度実績】10 校10 件

2) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

ア 大阪市教育センター等と連携を図り、サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。

【令和元年度実績】4 件 11 回

イ 教員と連携を行い、事業の教育効果を高める。

(2) 幅広い利用者への支援

さまざまな人々の多様な学習ニーズに応える事業に取り組む。

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア 天文学を学べる大学と連携し、その分野への進学に興味を持っている生徒に情報提供を行う場を設け、大学と高校生の仲立ちを担う活動を実施する。

イ 市井の研究者と学芸員の協同による中之島科学研究所事業を行う。

ウ 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い市民に対する専門的な助言等の支援を行う。

【令和元年度実績】友の会 会員数 878 人

エ 一般市民が演示を行う科学実験大会を実施する。

オ キャンパスメンバーズ対応館であることを PR し、大学生等の来館を促す。

【令和元年度】来館者 2,868 名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。(再掲)

【令和元年度実績】22 件

イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。(再掲)
【令和元年度実績】展示ガイド活動延べ 1,502 名、エキストラ実験ショー実施回数 319 回

ウ 館外に出張しプラネタリウムやサイエンスショー、講演等を実施するアウトリーチ活動を実施する。(再掲)

【令和元年度実績】22件

エ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。

オ 随時、来館、電話による問い合わせ対応を行う。(再掲)

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア 月刊誌「うちゅう」を発行する。(再掲)

イ 3か月ごとに「科学館だより」を発行する。(再掲)

ウ ホームページ、Twitter、YouTube 等を利用した情報発信を行う。(再掲)

エ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。(再掲)

オ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。(再掲)

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。(再掲)

イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。(再掲)

ウ 施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める。(再掲)

エ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。(再掲)

(3) 参画機会の提供

市民やさまざまな利用者に向け、幅広い参画機会を提供する。

1) ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進(41)

ア 展示解説ボランティアによる展示ガイド、プチサイエンスショー、実験教室並びにその実施に向けての研修を行う。

【令和元年度実績】活動延べ人数 1,502 人

イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーの実施、並びにその実施に向けての研修とスキルアップ活動を行う。

【令和元年度実績】エキストラ実験ショー 319 回 見学者数 16,500 人

ウ 科学館だいきクラブ、友の会活動、東亜天文学会の活動支援を行う。

2) 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定(42)

ア サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、意見徴収を行う。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

ア エキストラ実験ショーの実施をはじめとした科学デモンストレーターの活動を支援する。

イ サイエンスガイドによる「サイエンスガイドの日」を開催する。

ウ 友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展を支援する。

エ 科学館だいきクラブによる展示解説を支援する。

オ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。

【令和元年度実績】展示ガイド活動延べ 1,502 名、エキストラ実験ショー実施回数

<CRS 関係> コロナ対策

(1) プラネタリウムホール座席の改修

プラネタリウムホールの客席について、ソーシャルディスタンスを確保し、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを低下させるために、隣接する座席同士の前・後・左右の間隔を広げる改修を計画する。

(2) オンライン事業のための設備整備とネットワーク構築

新型コロナウイルス感染症の感染リスク軽減のため、オンライン事業を拡大させるために、事業撮影用設備の整備および館内ネットワーク構築を計画する。

大阪歴史博物館

(前 文)

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指し、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行う。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。

【令和元年度実績】 寄贈 274 点

イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。

ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。

エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

ア 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。

【令和元年度実績】 館蔵資料撮影 42 カット、マイクロフィルム撮影456 カット、デジタル撮影2,187 カット

イ 「なにわ歴史塾」で市民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行う。

【令和元年度実績】 図書4,113 点

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 若手学芸員のスキルアップをはかるため、研修情報などの収集に努め、参加機会を模索する。

イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和元年度実績】 共同研究事業2 本、基礎研究事業1 本、著書・論文等58 件、研究発表61 件

イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。

6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。

イ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、効果を確認する。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。

【令和元年度実績】 1件 1点

8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)

ア 老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示端末などの展示機器の状況を把握し、適宜対応を行う。

イ 展示改修基本構想に基づき、改修の基本計画を策定し、展示改修へ向けての準備を進める。

ウ 展示ケースの有機酸対策について日常的に対応するとともに必要データを集め、展示更新計画のなかに改修工事を位置づける。

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金等外部資金を獲得するため、学芸員が新規応募する。

イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)

ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。

イ 増加する海外からの来館者対応のため、万博に向けた改修計画のなかでトイレの洋式化などの調整を進める。

ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 常設展における展示替え(11)

古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。

【令和3年度目標】 常設展示入場者 65,100人

【令和元年度実績】 常設展示入場者実績 239,558人

ア 最新の調査研究成果にもとづき、季節や時宜に応じた展示、話題性のあるテーマ・内容の展示をおこなうことで常設展示の更新に取り組む。

イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実をはかる。

ウ 館蔵資料および市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。

- ・「古代の都 難波京」 5月19日～7月12日
- ・「豊臣秀吉ゆかりの品々」 7月14日～8月30日
- ・「大阪の太子信仰 - 旭区太子橋の太子講資料 -」 9月1日～10月25日
- ・「新発見！なにわの考古学2021」 10月27日～12月20日
- ・「大大阪、その西へ - 湾岸・河口地域の変遷史 -」 12月22日～2月21日
- ・「新収品お披露目展」 2月23日～4月18日

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア 本年度は2本の特別展のうち、下記の1本を自主企画によって実施する。

- ・「難波をうたう - 万葉集と考古学 -」 10月2日～12月5日、開催日数56日

万葉集には古代難波の風景や宮殿、大宮人や遣唐使、防人の詠んだ多くの歌が綴られ、人々の思いを今に伝える。一方で、発掘された土器や木簡、宮殿の柱跡といった遺物・遺構は、過去の世界を具体的に示す。本展では、万葉集の助けを得ながら、考古資料を多角的にとらえ、古代難波の実像に迫る。これまでの考古ファンだけでなく、万葉集や文学に関心を寄せる方にも楽しめる展示とする。

【令和3 年度予算目標】 23,000人

イ 常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を実施する。

・「動物絵画はお家芸 - 大坂・森派の絵描きたち -」(自主企画) 4月3日～5月17日、開催日数40日

大坂に住み、リアルな猿の絵を描いて名を高めた江戸時代の絵師・森狙仙。その一派の作品を紹介する。本展は令和2年度にコロナ禍によりわずか3日で中断した特別展「猿描き狙仙三兄弟」を、館蔵品を中心に再構成したものである。

・「大阪町めぐり 喜連」(共同企画) 1月26日～3月21日、開催日数49日

大阪市平野区に所在する「喜連」は、古代の「伎人郷」と伝えられ、中世の環濠集落、近世には綿作の中心地として知られる。展示では、地元に残る古文書等を通じて、特徴ある「喜連」の歴史を紹介する。

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴博講座」を継続的に実施する。

【令和元年度実績】 2期6回

イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する。

【令和元年度実績】 考古学入門講座3回、漢文講座3回

ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する。

エ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する。

【令和元年度実績】 「大阪歴史博物館研究紀要」第18号

イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。

【令和元年度実績】 「大阪歴史博物館研究紀要」第18号

ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。

エ 特別展の図録を作成する。

【令和元年度実績】 2本の独自の特別展において作成、巡回の特別展1本でも図録を用意した。

オ 特集展示リーフレットを継続的に作成する。

【令和元年度実績】 6本の特集展示において作成(ただし1本は臨時休館により非公開)

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して各館への資料の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。

イ 機構内各館と連携した展示や共同研究の企画を模索する。

ウ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。

8) 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用 (18)

ア 共同研究における外部研究者との研究を行う。

【令和元年度実績】 共同研究2本

イ 大阪市文化財協会が調査した埋蔵文化財資料の展示や速報性を重視した年2～3回のパネル展を実施する。

ウ 東京都江戸東京博物館との共同研究を継続実施する。

エ 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流を実施する。

9) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施 (19)

ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアーなどの実施。

【令和元年度実績】 難波宮遺跡探訪4,582人、復元倉庫公開10,999人

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 (20)

ア ホームページ、Twitterでの情報発信を継続して行う。

【令和元年度実績】 ツイート数 596件

イ 紙媒体として「歴博カレンダー」を継続的に発行する(年4回)。

ウ 谷町四丁目駅での電照広告や掲示板の効果的な活用を図る。

【令和元年度実績】 4回作成

2) マスメディア等への積極的な情報発信 (21)

ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 (22)

ア 機構の広報誌「Osaka Museums」に編集協力し、それを配布して当館および機構各館の広報を行う。

3) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 (23)

ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。

イ NPO法人まち・すまいづくりと協働して、あべのハルカス近鉄本店内でポスター掲出を行い、同上本町店のデジタルサイネージで特別展広報を行う。

4) 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開 (24)

ア さまざまなメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。

【令和元年度実績】 NHK「ブラタモリ 大阪・ミナミ編」(5月18日)、テレビ朝日「ぶっあけ寺」(8月22日)、NHK「日本人のお名前っ!」(1月30日)

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

毎日新聞大阪本社および毎日放送との共催で特別展「あやしい絵展」(7月3日～8月15日)を実施する。

- ・「あやしい絵展」(巡回企画) 7月3日～8月15日、開催日数38日

明治時代、美術の世界では西洋の技法や美術思潮の影響により、新しい時代にふさわしい作品が制作されるようになった。これらのなかには、退廃的、妖艶、グロテスク、エロティックといった言葉で形容できる作品がある。その表現は、当時美術界の一部で批判を受けたが、文学などをバックグラウンドとして大衆に広まっていった。本展では、幕末から昭和初期に制作された絵画、版画、雑誌・書籍の挿絵などから、このような表現を紹介する。

【令和3年度予算目標】29,800人

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

- ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する(再掲)。
- イ 増加する海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化などの計画策定を進める(再掲)。
- ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。(再掲)
- エ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。(再掲)

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

- ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。
- イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実をはかる(再掲)。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励(28)

- ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける。

【令和元年度実績】第35回歴史学入門講座(同講座実行委員会)

5) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

- ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める。
- イ 新たな連携のための情報収集を行う。

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

- ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める(再掲)。
- イ 最寄のOsaka Metro 駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metro の事業への協力などを通じての広報を推進する。
- ウ 博物館周辺の商業施設(もりのみやキューズモールBASE など)との共同広報展開を継続する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施(31)

- ア 隣接するNHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、NHK大阪BKワンダーランドにあわせた企画を実施する。

イ 書店や図書館などが実施するまちライブラリーブックフェスタに参画する。

(3) 民間企業等との協働等

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32)

ア ミュージアムショップの魅力向上に努める。

イ レストランの機能維持に努め、実施している相互割引などに加えて魅力向上にも努める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(33)

ア ミュージアムグッズの企画開発、販売を民間事業者と連携して実施する方策を模索する。

3) 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援(34)

ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体、市民団体の要請に応える。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施(35)

ア 常設展示場内でのスタンプラリー実施や8階「歴史を掘る」コーナーでのワークシートの配布。

イ 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」などのこども向け事業を実施する。

ウ 学校団体を対象とした学芸員による遺跡探訪ツアーを実施する。

エ 中学生向け職業体験を実施する。

【令和元年度実績】 職業体験・職業講話 11校

2) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

ア 教員向けの利用講座を通じ、ワークショップなどで当館の魅力を伝えるようにし、当館の活用を図るようにする。

イ 教員研修への協力を行う。

ウ 教員のための博物館の日を実施する。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア 夏季に博物館実習などを通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れる。

【令和元年度実績】 10 大学53名

イ 要請にもとづき、大阪大学、大阪芸術大学、大阪市立大学等への出講を行う。

【令和元年度実績】 大阪大学、大阪芸術大学、大阪市立大学 3 講座

ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。

エ キャンパスメンバーズ対応館であることを PR し、大学生等の来館を促す。

【令和元年度】 来館者 1,281名

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴史博講座」を継続的に実施する(再掲)。

【令和元年度実績】 2期6回

イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する(再掲)。

【令和元年度実績】 考古学入門講座3回、漢文講座3回

ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する（再掲）。

エ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。（再掲）

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する（再掲）。

【令和元年度実績】 「大阪歴史博物館研究紀要」第18号

イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。（再掲）

【令和元年度実績】 「共同研究報告書」14、館蔵資料集16「小絵馬」

ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。（再掲）

エ 特別展の図録を作成する。（再掲）

【令和元年度実績】 2本の独自の特別展において作成、巡回の特別展1本でも図録を用意した。

オ 特集展示リーフレットを継続的に作成する。（再掲）

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。（再掲）

イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実をはかる。（再掲）

(3) 参画機会の提供

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進(41)

ア ボランティア活動を維持し、特別展および博物館見学、異文化理解などの研修を行い、活動が充実するように努める。

【令和元年度実績】 活動延べ人数5,266人

イ 近隣地域に活動拠点を置くNPO法人などと、わくわく子ども教室「凧づくりと凧揚げ」などの協働事業を実施する。

2) 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定(42)

ア ボランティアとの意見交換の場として、ボランティア懇談会を開催する。

イ 友の会の総会および幹事会を通じ、意見を聴取する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける（再掲）。

【令和元年度実績】 1件

<CRS 関係> コロナ対策

1) 既存サービスのデジタル化

ア グッズ・図録のECを活用した販売を開始し、グッズ開発を進める。

イ 電子チケット販売を更に推進し、インターネットプロモーションの実施、電子マネー等導入によるキャッシュレス化を検討する。

2) デジタル化による新規事業の展開

ア SNSでの展示解説等の動画配信を推進するとともに、オンラインでの講座開催をめざす。

3) 新規利用者層の開拓

- ア リアル謎解きゲームを企画、運営する。
- イ フォトコンテスト、写真教室など館の収蔵品と施設を活用した個人参加型イベントを企画、運営する。
- ウ 講堂・貸室を活用した音楽発表会・フィルム上映会イベントを実施する。

4) 法人利用者の開拓発掘

- ア 民間企業と共同でイベント等企画開発を行うべく営業活動を実行する。
- イ 旅行会社と共同でマイクロツーリズム企画の開発を行い催行する。
- ウ 通常の博物館運営ならびに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。

5) 常設展示等の大規模改修

- ア 2025（令和7）年公開を目標に、常設展示等の大規模改修の計画を推進する。令和3年度は基本計画策定を実施する。
- イ 更なるCS向上のためレストラン委託事業者の見直しを検討する。

6) 省エネルギー運営へシフト

- ア 省エネルギー投資を実行し、光熱水費の削減を実現する。

大阪中之島美術館準備室

(前 文)

今年度末の開館を迎えるにあたって、作品資料の調査研究、整理、修復、保存処理といった美術館の基本業務を確実にするとともに、効果的な広報及び情報発信を図り、民間PFI事業者との協働を活かした柔軟性に富む運営体制を整えるなど、多様な開館準備業務を遅滞なく進める。

また、開館後は、大阪中之島美術館の使命「①大阪と世界の近現代美術の魅力を伝えます。」「②大阪人の目で美術の新たな価値を創造します。」「③ヒト・コト・モノが行き交うプラットフォームとなります。」「④大阪発の情報を世界に広めます。」を果たすべく、大阪が誇る第一級の近・現代美術とデザインのコレクションを有する美術館として、展示や公開、普及活動を積極的に展開し、あわせて作品資料収集や調査研究や保存、修復等の事業を計画的かつ継続的に実施する。

1 大阪中之島美術館の開館に向けて

(1) 整備事業への関与

大阪中之島美術館の建設に関して、大阪市と連携して進める。

- 1) 大阪市及び工事業者との間で開催される工事定例会や整備内容に関する協議等に積極的に参加し、情報の収集を行う。
- 2) 収蔵作品資料の管理や開館後の運営について責任をもつ学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう、大阪市に助言を行う。

(2) 開館準備実施

1) コレクション展及び企画展の開催の準備(44)

ア 収蔵作品資料及び図書等の大阪中之島美術館への輸送（引越）を行う。

- ・ 昨年度立案した下記の計画に従い、収蔵作品資料及び書類・図書等の製函及び大規模輸送、さらに収納・配架を安全かつ効率的に実施する。

- ①収蔵作品資料の輸送前製函計画
- ②収蔵作品資料の輸送及び配架計画
- ③書類・図書等の輸送及び配架計画

- ・ 収蔵作品資料の検品を実施する。

イ 開館後に開催する展覧会（企画展・コレクション展）について企画立案し、実施に向けた準備を進める。PFI 事業者と協働し、令和7年度以降に開催する展覧会の計画を進める。

ウ 大阪中之島美術館で必要な備品等の調達を行う。

- ・ 昨年度選定した業者からの備品の納品及び検品・設置等を安全かつ効率的に実施する。

(3) 開館記念企画展の準備(46)

ア 開館記念企画展を準備する。

大阪中之島美術館の開館にあたり、5階及び4階すべての展示室を活用し、テレビ局と協働して開館記念企画展を開催する。

- ・ 「Hello! Super Collection 超コレクション展」（特別展）2月2日～3月21日、開催日数42日

開館を記念し、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する。

【令和3年度予算目標】84,000人

イ 開館記念企画展の効果的な広報を実施する。

- ・PFI 事業者と協働し、ウェブサイトや SNS 等の更新や充実等を通じて、開館記念企画展とその関連事業の情報を発信する。
- ・大阪中之島美術館公式ウェブサイトや SNS 等を継続的かつ効果的に更新する。

(4)開館に向けた機運の醸成(47)

ア PFI 事業者と協働し、ウェブサイトや SNS 等の更新や充実等を通じて、大阪中之島美術館の整備や開館準備の状況、開館イベント、開館記念企画展とその関連事業の情報を発信する。

- ・大阪中之島美術館公式ウェブサイトや SNS 等を継続的かつ効果的に更新する。(再掲)
- ・大阪中之島美術館の開館に向けた機運を醸成するための PR・広報活動を実施する。
- ・大阪中之島美術館の整備の進捗や開館準備についてわかりやすく周知する「開館準備ニュース」を発行、ホームページ上に掲載する。

【令和元年度実績】「開館準備ニュース」発行6回

- ・SNS 等を活用し、イベント等の情報を積極的に発信する。

イ PFI 事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施する。

ウ 他の美術館や大学、企業等との連携を推進する。

2 開館後の取り組み（開館前からの継続事項含む）

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備

1) 博物館等資料の新たな収集(1)

ア 美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。

- ・開館後のコレクション展示等における活用のため、収集方針に従って令和4年度以降の作品収集にかかる準備を行う。

【令和元年度実績】購入14件、寄贈等12件

- ・作品資料収集活動に必要なかつ適切な情報を入手するため、国内外の美術動向に関する資料を継続的に収集する。
- ・所蔵作品作家の著作権状況について継続的に調査を進める。

2) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承(2)

ア 大阪中之島美術館の開館前の燻蒸及び IPM を実施する。

- ・PFI 事業者と協働し、収蔵作品資料及び図書の燻蒸を実施する。
- ・PFI 事業者と協働し、昨年度策定した作品資料収蔵エリア等のIPMクリーニングの計画に基づき実施する。

イ 収蔵庫及び展示室での温湿度及び酸・アルカリ濃度の管理を継続的に行う。

ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。

エ 新規受入作品資料の登録を継続的に行う。

3) 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供(3)

- ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。（開館前より継続実施）
- イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。（開館前より継続実施）
- ウ 作品資料の撮影を行う。
 - ・美術館建物引渡しの後、大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。
 - ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。

【令和元年度実績】 作品撮影564件、アーカイブ資料撮影470件

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

次年度以降の取り組みとする。

5) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

- ア 収蔵作品資料に関する調査研究を、継続的に進める。
- イ 作品資料保存や展示方法について、最新の情報の収集に努める。

6) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

次年度以降の取り組みとする。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復(7)

- ア 収蔵作品資料について、作品保護と開館後の展示の必要性を考慮して、修復と額装を行う。（開館前より継続実施）

【令和元年度実績】 修復18件、額装等39件、保存処置300点

8) 各館の施設の計画的な整備及び改修(8)

該当せず。

9) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

次年度以降の取り組みとする。

10) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修(10)

該当せず。

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 常設展における展示替え(11)

次年度以降の取り組みとする。

2) 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化(12)

ア 大阪中之島美術館の開館にあたり、5階及び4階すべての展示室を活用し、テレビ局と協働して、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する開館記念企画展を開催する。

- ・「Hello, Super Collection 超コレクション展」（自主企画・特別展）

2月2日～3月21日、開催日数42日

【令和3年度予算目標】84,000人（再掲）

3) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

- ア PFI事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館プレイベントを実施する。（開館前より継続実施）（再掲）

4) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(14)

ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイト等を通じて公開する。

イ 特別展の図録を作成・販売する。

5) 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用(15)

次年度以降の取り組みとする。

6) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 他館の学芸員と協力して調査・研究を進め、展覧会でその成果を広く公開する。

7) ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進(17)

ア 開館後のアーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。(開館前より継続実施)(再掲)

イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。

(開館前より継続実施)(再掲)

ウ 作品資料の撮影を行う。

・美術館建物引渡しの後、大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。(再掲)

・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。(再掲)

【令和元年度実績】作品撮影 564 件、アーカイブ資料撮影 470 件

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

8) 他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた作品(資料)の保全及び効果的な活用(18)

次年度以降の取り組みとする。

9) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施(19)

ア PFI事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館プレイベントを実施する。(開館前より継続実施)(再掲)

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信(20)

ア PFI事業者と協働し、大阪中之島美術館公式ウェブサイトや SNS 等を継続的かつ効果的に更新する。(再掲)

イ 印刷媒体や交通広告、街路バナー等、多様な層を射程に媒体と時機の最適化を図り、PFI事業者と協働して、美術館事業の広報、広告を実施する。

2) マスメディア等への積極的な情報発信(21)

ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに加え、各種オンラインメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行う。

イ 外部専門家の協力のもと、情報の配信・送付先やリリースの形態、文言、タイミング等を常に精査し、プレスリリース効果の最適化を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

次年度以降の取り組みとする。

4) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

次年度以降の取り組みとする。

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実と体制整備

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致(25)

ア 大阪中之島美術館の開館にあたり、5階及び4階すべての展示室を活用し、テレビ局と協働して、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する開館記念企画展を開催する。

- ・「Hello, Super Collection 超コレクション展」(自主企画・特別展)

2月2日～3月21日、開催日数42日

【令和3年度予算目標】84,000人(再掲)

2) さまざまな利用者の受入れ体制の充実(26)

ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の見直しを進める。次年度以降の取り組みとする。

3) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(27)

ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

4) さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得(29)

次年度以降の取り組みとする。

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

ア Osaka Metroや京阪電車と連携し、継続的な広報を推進する。

イ 中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会等と連携し、民間企業との広報連携を推進する。

2) 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実(32)

ア ミュージアムショップを設置し、魅力的な物販を推進する。

イ 1階サービス施設エリアのレストランやショップ等の誘致を推進する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発(33)

ア 開館及び特別展開催に伴い、グッズ等の商品開発を行う。

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施(35)

ア 外部専門家と連携して、こどもを対象としたワークショップ等を実施する。

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

ア これまでの外部研修生(インターン)制度を見直し、開館後の研修プログラムの検討を進

める。

イ 開館後の博物館実習生の受け入れ計画を作成する。

ウ 大阪市立大学での博物館学に係る講義を分担する。

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

ア PFI事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館プレイベントを実施する。(開館前より継続実施)(再掲)

イ アーカイブズの方針、収集や整理、システム開発や運用方法等にかかる研修、普及事業を実施する。

3) 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(39)

ア アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。(開館前より継続実施)(再掲)

イ 撮影済みの画像データの公開

- ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。(再掲)

【令和元年度実績】作品撮影 564 件、アーカイブ資料撮影 470 件

ウ 特別展の図録を作成・販売する。(再掲)

4) 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(40)

ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。(再掲)

(3) 参画機会の提供

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

1) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励(43)

次年度以降の取り組みとする。

(前 文)

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努める。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

1) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(4)

ア 採用されて、数年の学芸員に対して、機構、各館の運営、活動等について研修を行い、今後の現場での活動に役立つよう育成を行う。

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究(5)

ア 博物館の利用者等に関する調査・分析等を継続的に実施する。

3) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等(6)

ア 博物館の評価についての情報収集に努めるとともに、6 月末までに令和2年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に令和3年度の間接評価（仮評価）を実施する。

4) 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得(9)

ア 科学研究費補助金を活用した研究課題1件を継続的に実施し、また新規の応募を行い研究資金の獲得に努める。

イ 文化庁補助金「コロナ禍を契機とした新たな利用形態の開発に向けて都市型地域ミュージアムモデル形成事業(申請中)」を活用した事業を予定し、また次年度の応募を行って補助金獲得に努める。

【令和元年度実績】 ミュージアムと地域を活性化させる魅力発信事業 採択

(2) 幅広い活動や連携を通じた博物館等魅力の効果的発信

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(13)

ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16 講演程度開催する。

【令和元年度実績】 学芸員連続講座 2 シリーズ 13 回実施

イ 大阪市立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6 講演)、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。

【令和元年度実績】 大阪市立大学との連携で6 講演実施 歴史連続講座 1 シリーズ 6 講演実施 鋳物師シンポジウム実施 七夕講演会の実施

ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。

2) 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携(16)

ア 展示・収蔵環境、オンライン発信の整備等の各館に共通する課題について、情報意見交換の場、研修を主催し、課題の改善に取り組む

- ・展示・収蔵環境部会の開催
 - ・情報化ネットワークに関する検討会 等
- イ 収蔵資料貸借による展示の充実、共同研究、地域イベントへの参画など連携・協働を通じて、パフォーマンスの向上に取り組む。
- ・自然史博物館と大阪歴史博物館学芸員などと科学研究費課題の申請（再掲）。
 - ・「アインシュタイン展」における自然史博物館と大阪市立科学館との連携（再掲）。
 - ・自然史博物館「自然史フェスティバル」において、科学館と連携し「ジオカーニバル」の実施。
 - ・東洋陶磁美術館、科学館、大阪中之島美術館準備室の「クリエイティブアイランド中之島」への参画による、クリエイティブコンテンツの開発・創出（再掲）。
- ウ 共同広報、連続講座、講演会の開催を主催し、各館、機構の PR に取り組む。
- ・インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で開設・運営し、展覧会情報等を掲載する。
 - ・Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。
 - ・各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka Museums」を4回発行する。

【令和元年度実績】Osaka Museums 4 回発行

- ・各館の概要を案内する「総合案内パンフレット」（多言語）ならびに新たに作成した英文案内冊子を適宜配布する。
- ・各館の学芸員等が連携して行う連続講座を約 16 講演程度開催する（再掲）。
- ・大阪市立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を 1 シリーズ（6 講演）、歴史に関する連続講座を 1 回、シンポジウムを 1 回、理系の講演会を 1 回、それぞれ開催する。状況に応じて、オンライン配信の取り組みを行う。（再掲）

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用 (18)

ア 大阪市立大学と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、キャンパスメンバーズ制度や博物館学・実習の援助等の学生支援、講座開催等の社会貢献を行う。

【令和元年度実績】 大阪市立大学博物館学講座において「保存論」「展示論」「経営論」の 3 講座担当

イ 大阪市文化財協会と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、展示、普及事業等を実施する。

4) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施 (19)

ア 大阪 M I C E デスティネーション・ショーケースへの出展等、各館のユニークベニユーの取り組みを支援する。

(3) 戦略的広報の展開

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 (20)

ア インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載する。（再掲）

イ Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。（再掲）

- ウ 各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka Museums」を4回発行する。(再掲)
- エ 大阪市内の博物館群を紹介する冊子を作り、市民への情報発信、各館連携を図る(文化庁補助金による)。
- オ 機構全体の広報戦略を作成し、第1期中期計画の残りの期間の広報計画を立てる。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

1) 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定(22)

- ア 試験的にカスタマーリレーションシップマネジメントを行う
- イ 広報強化の一環として、顧客データベースを構築し顧客数増の施策を試行実施する。

2) 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開(23)

- ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。

2 幅広い利用者の獲得と連携強化を通じて「大阪を元気に」

(2) 周辺事業者との連携

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1) 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客(30)

- ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等の商業施設に広報誌「Osaka Museums」を設置し、広報を行う。
- イ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。
- ウ 大阪市内の博物館群を紹介する冊子を作り、市民への情報発信、各館連携を図る。(文化庁補助金による)(再掲)

3 人々の多様なニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こどもや教員の支援

1) 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施(36)

- ア 学校利用を促すための「授業に役立つミュージアム活用ガイド」を配布する。
- イ 夏休み期間に「教員のための博物館の日」を自然史博物館、歴史博物館で各1回開催する。

【令和元年度実績】教員のための博物館の日を2回実施

(2) 幅広い利用者への支援

1) 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施(37)

- ア キャンパスメンバーズを実施し、大学生等が各博物館を気軽に訪れられるようにし、常設展示・特別展等で行う文化・知識に触れやすくする環境を整え、専門的な知識内容の理解を深められるようにする。

【令和元年度実績】提携校 大学 5校 高校 2校

2) 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業(38)

- ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。(再掲)

【令和元年度実績】学芸員連続講座 2シリーズ 13回実施

- イ 大阪市立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行

う。(再掲)

【令和元年度実績】 大阪市立大学との連携で 6 講演実施 歴史連続講座 1 シリーズ 6
講演実施 鋳物師シンポジウム実施 七夕講演会の実施

ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。(再掲)

【令和元年度実績】 3 件実施

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 人材の活用と育成

職員の意欲及び能力を活かすため、次の通り、職員の育成に取り組む。

【法人として充実を目指す事項】

1) 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置(49)

職員の意欲及び能力向上に資するため、職員の能力が発揮できる組織体制の構築や職員の適切かつ柔軟な配置を進める。

2) 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保(50)

職種や職階を超えた職員に共通する研修を実施する。

管理者層向けの研修を実施する。

新採・新任研修を実施する。

学芸員の資質向上を目的に、専門的研修を実施する。

法人の内部統制の推進のための研修を実施する。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得(51)

年齢・性別等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を、すべての職種において採用する。

4) 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(52) (再掲)

教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について検討を行う。

2 評価制度の活用

評価制度に基づく業務改善及び職員のモチベーションが向上するよう、次の通り、適正な制度の運用を目指す。

【法人として充実を目指す事項】

1) 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価(53)

年度計画については、令和4年度分の策定に向けて、評価委員会の意見に沿いながら、適正な目標設定を行ったうえで年度計画を作成する。自己評価については、6月末までに令和2年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に令和3年度の間接評価(仮評価)を実施して下半期の業務改善につなげる。

2) 能力に応じた人事評価の実施(54)

職種に応じた能力が的確に把握できる評価制度の浸透を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施(55)

展覧会事業における観覧者数や事業費を始め、適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する他館情報も含めた調査研究を実施する。

4) インセンティブが適正に働く人事制度の導入(56)

事業評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度の構築を検討し、その運用を実現する。

3 ICTの導入・活用、民間活力の導入

業務の標準化及び迅速な処理のため、次の通り、ICTの導入及びその活用を図る。

【法人として充実を目指す事項】

1) 財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用(57)

各館と事務局を結ぶネットワークを通じて、法人情報の迅速な共有を図る。人事・給与や財務会計システムを利活用し、業務の省力化を図る。

利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。

【法人として充実を目指す事項】

2) 事業効果を見極めた外部委託の推進(58)

事務局や各館の進める事業に対する顧客の評価を把握するため、その調査における外部委託を進める。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3) 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用(59)

教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について、検討を行う。
(再掲)

4) 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入(60)

委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。

5) リモート・ワーク(在宅勤務)の推進

コロナ禍を契機とした新しい生活様式に対応した働き方を推進するため、専用端末や諸規程等を整備し、リモート・ワークの推進を図る。

第3 財務内容の改善に関する事項

1 収入の確保

資金を安定的に確保するため、次の通り、各館の収入の増加に努めるとともに、外部からの資金獲得にも努める。

1) 幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加(61)

令和3年度より実施する機構中期戦略(CRS)によって、収入確保を推進する

【法人として充実を目指す事項】

次の中期目標期間中の増収目標の他一斉に必要な単年度分の増収をめざす。

・ 中期計画期間中の増収目標 (2019年4月1日版 中期計画より抜粋)

(大阪市立美術館) 常設展：5年で3% 特別展：5年で5%

(大阪市立科学館) 常設展：5年で5%

(大阪歴史博物館) 常設展：5年で3% 特別展：5年で3%

(大阪市立東洋陶磁美術館) 特別展：5年で3%

(大阪市立自然史博物館) 特別展：5年で5%

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2) 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得(62)

社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討する。

機構や各館のHPを通じたキャッシュレスによる積極的な寄附金や協賛金等の獲得に取り組む。

3) オンラインサービスの充実による収入増

オンラインショップの開設や積極的な商品開発により、新たな収益の獲得を実現する。

2 経費の節減

安定的な経営を実現するため、次の通り、経費の縮減に努める。

1) 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減(63)

業務委託や高額物品の調達等において、規程に従い、競争入札を実施する。

令和4年度からの契約手法の見直しを見据え、一括調達や長期契約に向けた規程等を整備する。

2) 共同調達による経費の縮減(64)

各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について具体的な品目を定め、各館室等との共同調達を進める。

第4 その他業務運営に関する重要事項

1 内部統制移管する事項

(1) 環境整備

内部統制の確立のため、次の通り、必要な規程の策定等を行うとともに、その理解を深めるための環境を整備する。

【法人として充実を目指す事項】

1) 法人として定めた規程及び体制による内部統制の推進(65)

法令や業務方法書等に基いた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。役員及び職員としての倫理指針及び行動指針を遵守する。

2) 研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での職員の意識向上(66)

研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。

3) 各職階及び各職域に応じた必要な権限と責任感の一層の醸成(67)

組織や役員の分掌に関する規程に沿って、法人業務を監理・監督する。

4) 適切な意思形成のための法人内の会議体の在り方の検証(68)

理事会や業務執行のための会議を定期的開催し、迅速な意思決定や情報共有を図る。

5) 情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用の促進(69)

意思疎通や情報共有のため、導入したグループワークやウェブ会議のシステムなどのICT技術を積極的に活用する。

6) 内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施(70)

監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを行う。

(2) 重要なリスク回避のための体制の構築

重要なリスクを回避するため、次の通り、早期の発見及び対処が可能な体制を構築する。

【法人として充実を目指す事項】

1) リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価(71)

業務実施の障害となるリスクを調査し、当該リスクへの適切な対応を可能とする規程に沿った運用を行う。

入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見とリスク回避を図る。

建築物(付帯設備も含む)管理・点検を行い施設障害発生リスクの回避に努める。

2) ネットワークセキュリティの強化(72)

個人情報などの機密情報の漏えいを未然に防ぎ、情報セキュリティ対策の一元化を図るため、情報システムに関する作業部会を立ち上げ、報告をまとめる。

訓練や研修を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を把握し、その結果に基づいて改善に努める。

2 その他の事項

(1) 利用者等の安全確保

さまざまな人々が快適に利用できるようにするため、次の通り、各館の施設における安全を確保する。

【法人として充実を目指す事項】

1)利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底(73)

利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

2)博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(74)

快適な利用環境の確保に向けた計画的な整備を行う。

高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施する。

3)バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(75)

建築物の大規模改修時において、バリアフリー化を推進する。

(2) 環境保全の取組み

環境への負荷を低減するとともに、社会の要請に応えるため、次の通り、環境に配慮した取組みを進める。

【法人として充実を目指す事項】

1)省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定(76)

環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。

2)再生紙その他の資源の有効利用の促進(77)

再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図る。

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】

3)環境に配慮した取組みの指標化及びその公開(78)

建物の大規模改修時に省エネルギー機器の導入を図る。

制定した「リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画」に沿って、引き続き省エネルギーに努める。

4)新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進(79)

環境への取組状況をエネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき管理する。

(3) 情報公開の促進

運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、次の通り、情報公開を推進する。

【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】

1)ホームページ等を通じた情報の積極的な公開(80)

法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で

積極的に公表する。

2)情報公開請求に対する迅速な対応(81)

事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。

第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（人件費の見積りを含む。）

2021 年度予算

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金	3,161
施設整備費補助金	818
自己収入	671
事業収入	648
その他収入	23
寄付金収入	8
前期繰越金	947
計	5,605
支出	
業務費	2,654
展覧会経費	536
その他業務経費	945
人件費	1,173
施設整備費	926
修繕費	108
施設整備費補助金支出	818
一般管理費	1,078
機構戦略費	947
計	5,605

2 収支計画

2021 年度収支計画

(単位：百万円)

区分	金額
費用の部	5,729
経常費用	5,729
業務費	2,654
展覧会経費	536
その他業務経費	945
人件費	1,173
施設整備費	926
一般管理費	1,076
機構戦略費	947
減価償却費	126
収入の部	5,706
経常収益	5,706
運営費交付金収益	3,161
施設整備費補助金収益	818
事業収益	648
その他収益	3
寄付金収益	955
資産見返負債戻入	121
純損失	▲ 23
前期繰越金	23
総利益	0

3 資金計画

2021 年度収支計画

(単位：百万円)

区分	金額
資金支出	7,168
業務活動による支出	5,605
投資活動による支出	0
翌年度への繰越金	1,563
資金収入	7,168
業務活動による収入	4,658
運営費交付金による収入	3,161
施設整備費補助金収入	818
事業収入	648
その他収入	23
寄付金収益	8
投資活動による収入	0
前年度よりの繰越金	2,510

第6 短期借入金の限度額

1 限度額

5億円

2 想定される短期借入金の発生事由

運営にかかる一時的な資金不足への対応、運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要なとなる対策費として借り入れすること等が想定される。

第7 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

なし

第8 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第9 剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した場合、館蔵品の購入等、展覧事業・調査研究等の充実、施設・設備機器の整備及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。

第10 その他設立団体の規則で定める業務運営並びに財務及び会計に関する事項

1 積立金の使途

積立金は、中期目標期間中の損益計算における利益の残余を整理するものであり、第1期中期目標期間において前期の積立金は存在しないため、その処分に関する計画は作成しない。

2 その他法人の業務運営に関し必要な事項

(1) 人事に関する計画

第2 (1) 人材の活用と育成、(2) 評価制度の活用に記載のとおり。

(2) 施設及び設備に関する計画

長期的な展望に立った計画的な施設設備の整備を行うとともに、施設の老朽化の程度を勘案しつつ、下記のと通りの計画に従った整備を推進する。

施設・設備の内容	予定額（百万円）	財源
・建物改修工事実施設計業務 ・受変電設備・電源装置等更新 ・給排水・防水工事 ・エレベータ設備更新 ・各所施設整備	818	施設整備費補助金